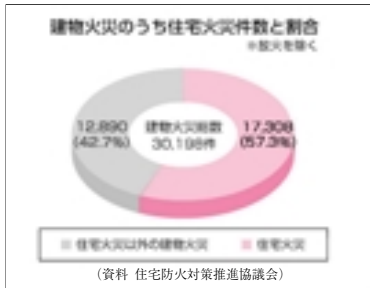




住宅防火対策について



住宅防火対策は万全ですか？

新年を迎え、本格的な冬のシーズンが到来しましたが、この時期は火災の最も発生しやすい時期でもあります。

その中でも一般住宅における火災が最も多く、その原因も放火を除くと、ほとんどが火気使用器具などの取り扱いの不適や不注意によるものが多くを占めています。

ということは、ちょっとした心がけや、正しい習慣を身に付けることで、恐ろしい火災を未然に防ぐことができるといえるでしょう。

みなさんのお宅における防火対策を、いま一度考えてみませんか。



コンロ

台所での火災原因の最も多いのがコンロです。また、高温になると自然発火してしまう天ぷら油火災も要注意！

- コンロの側を離れるときは必ず火を消す。
- コンロのまわりに物を置かない。
- コンロに衣服を近づけない。
- 古くなったガスホースは交換する。
- コンロは壁から離して置く。
- コンロは身長に合った高さで使う。
- 天ぷら油の加熱に注意する。



コンセント

日常、見落としがちなのがコンセント。発熱して火災の原因となることがあります。

- たこ足配線はしない。
- 時々、プラグを確認して清掃する。
- 電気コードをカーペットや家具などの下敷きしない。
- 古くなった電気コードは取り替える。
- コードを引っばって抜かない。
- アイロンやドライヤーは使用後、プラグを抜く。



たばこ

たばこの火は700℃～800℃もの高温です。消したつもりでも完全に消えないことがあります。小さな火ですが油断は禁物です。

- 灰皿にはいつも水を入れておく。
- 吸い殻はこまめに捨てる。
- 寝たばこは絶対にしない。
- 灰皿にたばこを置いたままにしない。

ストーブについては、12月号をご参照ください。



高齢者のために

住宅火災で亡くなる高齢者が増えています。家族全員で防火対策の再確認をしましょう。

- 火の元の回りはいつも整理整頓する。
- 火の怖さを再認識しましょう。過信は禁物です。
- ちょっとした異常もしっかり確認する。
- 灯明には安定したローソク立てを使う。
- 万が一のときには消火より避難を最優先する。



子どものために

ライターやマッチによる火遊びが多くなっています。

火遊びの怖さを子どもたちと一緒に話し合いましょう。

- 子どもたちに火の恐ろしさを教える。
- 子どもの手の届くところにマッチやライターを置かない。
- ストーブの近くで遊ばせない。
- 子どもだけを残して外出しない。



住宅を火災から守るため、日ごろから火災予防の心がけを持つことが一番大切です。また、住宅用防災機器などの設置や防災製品を使用することもとても効果的です。

- 火を出さない。 → 安全装置付きの調理器具や暖房器具を使う。
- 火を広げない。 → 拡大を防止するためにカーテンや寝具類を防災製品に。
- 早く知る。 → 火災を早期に発見するための住宅用火災報知器の設置。
- 早く消す。 → 火災を初期の段階で早く消すために、住宅用消火器やエアゾール式簡易消火器の設置。

火災の恐ろしさをもう一度ご家族の皆さんで話し合い、ご家庭ごとの防火対策を推進していきましょう。また、住宅防火に関する詳しい情報を知りたい方は、松前消防署までお問い合わせください。